

こうれん ふくい

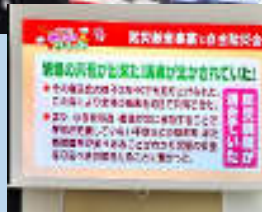
も く じ

第33回福井県公民館セミナー〔前期〕報告 ……1~3

特集：開業日前！北陸新幹線停車駅のまちの公民館
あわら市細呂木公民館 ……4
福井市一乗公民館 ……5

こうれんトピックス「富山大会報告」・
広報紙コンクール受賞館 ……6

第33回前期セミナー第一弾は「新たなツールで公民館のファンを増やそう!」と題し、ユーチューブを利用したライブ配信にて開催しました。講師は企業等のウェブサイトや広告の制作を多数手がける株式会社カウベル・コーポレーションの代表取締役 森川 徹志氏。令和3年度優良公民館表彰優秀館に輝いた2館による事例発表も交えながら、公民館におけるLINEやZom等のコミュニケーションツールの活用について考えました。(次ページへ続く)



事例発表者の
▲ 藤田主事と
◀ 村宮館長



第33回福井県公民館セミナー(前期 第一弾)報告
新たなツールで公民館のファンを増やそう!
令和4年7月13日(水) ユーチューブライブ配信

セミナー収録動画、
配信中!!



👉ここからアクセス!!

本年、会長職を担うことになりました福井市文殊公民館の中村です。浅学非才の身ですが、県公連の持続的発展のため誠心誠意努めてまいりますのでみなさま方のご支援ご協力をよろしくお願いたします。

公民館は、社会教育法に基づく理念を継承しながら今日まで続いてきていますが、社会や時代の変化とともに、その運営のあり方や制度上の位置づけは、各県、各市町によって様々に変わってきています。また会計年度任用制度に限らず、職員の採用や勤務条件も異なっています。

しかし、地域づくり、人づくりの拠点としての公民館の役割は、人口減や生活環境の変化の中で改めて強く意識されるべき時代になってきています。各市町の公民館が協力連携し、「公民館力」をパワーアップしていく一助になります。



就任あいさつ

福井県公民館連合会
会長 中村 准

各種コミュニケーションツールを活用して公民館のファンを増やそうとするときには、様々な問題が生じる場合もあるでしょう。今回のセミナーでは、問題解決の優先順位や情報発信の手順について、講師の森川氏からご指導いただきました。

◆ 森川氏講義より

ファンづくりの悩みは、だいたい「ひと」「こと」、そして「もの」の問題の3つに分けられる。ここでSNS等のツールは「もの」にあたるが、まず解決すべきは「ひと」「こと」の問題である。

「情報」とは元々「状報」と表記されていたことから推察されるように、「状況(こと)」を報じることがその本質と言える。そのため情報を発信する際には、まず報せるべき「こと」を企画し、報せることのできる「ひと」を組織する。それからツールを選ぶのが正当な手順と考えられる。

今回、2館の事例発表に共通して挙げられるキーワードは、「ひと」に関わる「巻き込み力」。両館ともコロナ禍の困難な状況の下、初めは「ひと」や「こと」の問題に直面するも、周囲の人々をうまく巻き込みながら

打開策を模索し、しかるべきツールを取り入れて活動を展開している。このような取り組みは決して手の届かないような事例ではなく、すべての公民館において普段から取り組まれていることの延長にある活動であることを意識して、今後のヒントを探していただきたい。



講師 森川氏 ▲



▼ 質疑応答の様子

「事例発表1」

音楽パワーが、住民に活力を

与える……(活きた公民館改革)

福井市河合公民館

藤田 育代 主事

コロナ禍でも地区民を元気にするために、公民館に何ができるか?と考える、屋外での「ほっとコンサート」をYouTubeでライブ配信することを企画。そのURLを周知する方法として、公民館と自主防災会とで立ち上げた公式LINEを利用することを思いつき、コンサートの告知チラシにQRコードを掲載して登録を呼びかけたところ、登録者数が大幅に増加。この公式LINEは地区内の緊急連絡網として作ったもので、毎月の公民館だよりも登録を呼びかけており、今では地区全体の3分の2の世帯が登録している。

また、コンサート会場での打ち上げ花火も企画。予算はなかったが、公民館の窓口で申し込む「アナログファンディング」で多額の協力が集まり、花火は大成功! 田園風景の中の美しい花火に元気をもらったとの反響が地区内外から届き、住民の地元愛の醸成に大きく貢献した。

これからも、住民が元気になれるような活動をしていきたい。

「事例発表2」

笑顔が集う町の縁側

〜そうや、公民館へいかへん!〜

高浜町和田公民館

村宮 博明 館長

コロナ前は毎日のように公民館に来る人も多く、令和元年の利用者は2万2千人。しかし、令和2年3月、コロナのため公民館は活動自粛となった。町全体が沈み込む中、公民館として何かできないか模索していたとき、Zoomの存在を知る。「ひよ」としたら公民館で使えるかも」と、すぐに職員と相談。皆、ICTの知識はほぼなかったが、使い方を学んで「できる」と確信。館内にはWiFiの設備が整っていないかったが、役場に相談してケーブルを引いてもらい、教育委員会のカメラを借用してZoom無料版を利用することで、新たな予算措置なしに実施することができた。いち早くオンライン講座を取り入れ、失敗してもいいからやってみよう、の精神で継続してきた結果、令和3年度には利用者は1万8千人まで回復した。

「不易流行」とは、伝統的な本質をふまえながら、時代の変化に応じて新しい事業分野や手法を取り入れていくこと。今後も公民館において実践していきたい。



森川氏の聞き取りやすくなりやすいお話と進行のおかげで、とても快適で理解しやすいセミナーでした。ただ、途中の通信状況の不安定さは残念。

河合公民館の発表の最後に見せていただいた動画には製作者の想いがぎゅっと詰まっています、地区の活き活きした様子が伝わってきました。

「できない」を「やってみよう!」にして、「できる」につなげられていく行動力にびっくりし、感動しました。すごいです!!

リアルタイム配信・後日配信の両方だと余裕のある時間帯に見ることができ、くり返し見ることができるので良かった。嶺南からの移動時間を考えると今後もこのようなセミナーだとありがたい。

坂井市の磯部コミュニティセンターで、リアルタイム配信を50インチテレビにパソコンをつないで、主事8人で受講しました。「研修」や「セミナー」は堅苦しくどうしても敬遠しがちでしたが、受講者同士で意見交換もでき、リラックスした雰囲気です。移動時間でも少なく手軽だと感じました。途中で音声途切れてしまい、質疑応答が聞けなかったのは少し残念でした。

これからも、新たなツールを使って、手軽にいろんな情報や知識を取り入れたいです。



第33回福井県公民館セミナー
 (前期 第2弾) 報告
**Zoom & Microsoft Teams
 体験会**
 令和4年7月22日(金)



▲ 講師 川又氏

7月22日(金)には、第33回福井県公民館セミナー〔前期〕第2弾として、福井県中小企業産業大学校において「Zoom & Microsoft Teams 体験会」が行われました。

パソコンやスマートフォン等の端末は参加者が各自持参しましたが、前半のZoom、後半のTeamsともに、機種によってはアプリケーションのインストールが必要な場合もあります。ある程度の基礎知識がないとなかなか大変な作業ですが、今回は、福井キャノン事務機株式会社の講師の方々の丁寧なご指導もあり、なんとか全員がインストール完了、体験をスタートすることができました。Zoom、Teamsともにオンライン会議をする上での様々な機能があって便利ですが、ハード機器面との相性、プランの価格差等、導入にあたっては無料体験版などを活用して充分確認する必要があります。

残念ながらWith コロナの時代はまだまだ続きそうな気配です。学校、会社、公的機関、様々な場でオンライン会議の重要性は増すばかりです。公民館への設置も年々増えていくことが予想されるので、社会・地域との繋がりを強くするためにもオンライン会議システムの知識を深めていく必要性を強く感じた体験会となりました。

開業目前！北陸新幹線停車駅のまちの公民館 その①

2023年の北陸新幹線開業を控え、地域の魅力発信に奮闘する地区の公民館を紹介します！



あわら市細呂木公民館

〒919-0805 あわら市滝 63-21 電話 0776-73-2151



細呂木公民館のスケッチ水彩画



竹細工教室の作品

細呂木公民館は、芦原温泉駅の一つとなりの、撮り鉄マニアの間で有名なJR細呂木駅から南へ徒歩3分のところにあります。

19集落850世帯が仲良く暮らす地区で、公民館の行事や講座にも多くの住民が関わっておられます。毎年恒例の門松づくりや竹とんぼ教室・竹細工教室の材料は、NPO法人細呂木地区創成会が竹林再生のため切り出す竹を使い、竹細工教室は講師として、金津創作の森人居作家の山田信雄先生に協力いただいています。

人気のある定期教室の一つに「デッサン教室」があり近藤館長も参加されています。公民館だよりの「細呂木地区散歩」コーナー

には地区の名所を紹介する記事とともに、近藤館長の優しいタッチで描かれたスケッチも毎回掲載されています。

細呂木の伝統を継承する

気候で滝瓦
北国で重宝
寒冷地、
強く、重宝



細呂木地区には、伝統文化や史跡が数多く残されています。かつて2000年以上にわたって生産されていた滝瓦もその一つ。昭和初期には越前で生産される瓦の約3分の1が滝区で生産されていました。その伝統産業を後世に伝えようと、細呂木公民館が

中心になって製造工程を忠実に再現した映像記録を制作しました。あわら市のホームページで見ることができます。

また、公民館近くの宮谷石切場跡では、明治20年頃から戦後まで石の切り出しが行われていました。真夏には外気温との差で中から白い冷気が流れ、石造りの神殿のような神秘的な美しさでした。



宮谷石切場跡

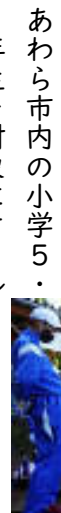


館長に案内いただきました

子ども達が挑戦！

たたら製鉄

細呂木公民館では、あわら市内の小学5・6年生を対象にオイル



缶を使って再現した古代式の炉に砂鉄や木炭を交互に入れて、砂鉄から鉄をつくる古代製鉄体験を行っています。

火を噴く炉に砂鉄や炭を入れる作業は少し怖そうな様子の子も達。しかし1000度以上に熱くなった下の炉からどろりと流れ出るノロ(鉄カス)を見ると、「火山噴火の溶岩みたい！」と歓声が上がります。

製鉄に必要なのは、燃え盛る炉に風を送って砂鉄が高温で焼かれること。そのために炉に空気を送り込み燃焼温度を上げるのに使われるのが「たたら」と呼ばれる足踏み鞆(ふいご)です。

製鉄が始まったのは古墳時代後期(6世紀後半)と言われ、細呂木近辺の丘陵地では10基の製鉄遺跡が発見されています。「細呂木製鉄遺跡」は北陸最古の古代製鉄遺跡として、あわら市の指定文化財に指定されています。

開業目前！北陸新幹線停車駅のまちの公民館 その②

2023年の北陸新幹線開業を控え、地域の魅力発信に奮闘する地区の公民館を紹介します！



福井駅

今回は越前たけふ駅・敦賀駅のまちの公民館を紹介します！

福井市一乗公民館

〒910-2154 福井市東新町 1-21 電話 0776-43-2001



一乗公民館



山口館長

そんな一乗地区で活動されている2つの団体を山口館長にご紹介いただきました。

一乗地区は、JR福井駅から東南東へ約12キロメートルに位置し、7つの町内からなっています。周囲は緑豊かな里山に囲まれ、一乗谷川の清流に沿って南北に細長く伸びた静寂な中山間地です。

地区内には国の特別史跡・特別名勝・重要文化財の三重指定を受けた「一乗谷朝倉遺跡」があり、その歴史的価値と豊かな自然環境が自慢です。加えて、復原町並みや道の駅等が整備されており、10月には「県立一乗朝倉氏遺跡博物館（愛称 あさみゆー）」がオープン。新幹線開業に向けて、中世時代の都市がそのまま残っている遺跡の価値を発信し、多くの人に訪れてもらおうと気運が高まっています。

越美北線を考える会

この会は、一乗公民館をはじめ福井市足羽ブロック内の公民館長や、越美北線沿線の景観をもっと良くしたい、魅力を広めたいという有志メンバーが集まって結成されました。越美北線に楽しく乗るためのツールとして昨年度「エツミホクセントラピノオト」を作成し、沿線で無料配布中です。今年度は沿線のマップづくりのため「越美北線魅力発見隊」を作り、沿線地区の住民が自ら歩いて魅力再発見する活動を進めています。まちあるきを通して、地区外の人との交流が深まり、今までにない新たな「うねり」を生み、様々な波及効果を生み出す勢いを見せています。

一乗公民館においても、地域おこしは人の力がないと持続可能にはならないと考え、「越美北線を考える会」と共にまちづくり、環境づくりに努力しています。



エツミホクセントラピノオト

一乗地区もウォーキングを行いました。これらの活動で新幹線開業が越美北線利用者の増大につながるよう期待しています！



一乗谷雪んこ会

「一乗谷雪んこ会」は、福井市の観光地である一乗朝倉氏遺跡を有する一乗地区の発展を願い、観光客誘致促進及び地区のまちづくり、活性化を図ることを目的として設立されました。

メンバーは11名（男性2名、女性9名）で、地元で収穫したお米（もち米）の加工や、自然食品の加工などを中心に活動しており、地域内でのイベントや公民館事業に参加しています。

先日開催された「越前朝倉戦国まつり」では、郷土料理の葉寿司や五日寿司などを振る舞い大好評でした。

一乗地区へ来てね～！



葉寿司づくり



全国・東海北陸公民館大会 富山大会



富山県立南砺平高等学校
郷土芸能部によるアトラクション

第44回全国公民館研究集会・第57回東海北陸公民館大会富山大会は令和4年9月8日～9日、富山県富山市において、「公民館活動の新たなステージ～社会の変化に即した活力ある地域づくり・人づくりの拠点を目指して～」をテーマに開催されました。Zoomによる配信を併用した開催で、会場参加者約940名、Zoom参加者約140名の合計1,080名が集いました。福井県からは87名の参加がありました。



1日目の全体会では表彰式や文部科学省の施策説明のほか、射水市大島絵本館の立野幸雄館長による「とやまの自然と文学」と題した記念講演がありました。



第4分科会発表者の川口館長と北嶋主事

2日目は5つの分科会が行われ、福井県からは第4分科会において福井市清明公民館の川口英雄館長が「ポストコロナを見据えた公民館活動」と題して事例発表されました。南越前町教育委員会事務局の白井眞次長による司会進行の下、コロナに負けない公民館活動に関する研究討議が進められました。



今大会で表彰を受けられた方々

令和4年度広報紙コンクール入賞館

*表彰式は10月19日(水)の第71回福井県公民館大会にて行います。

Aコース

- 最優秀賞
坂井市 高椋東部コミュニティセンター
『振媛の郷「たかとり」』
- 優秀賞
福井市 木田公民館
『きだより』
- 越前市 坂口公民館
『夢naviさかのくち』
- 優良賞
坂井市 丸岡城のまちコミュニティセンター
『城のまちかわら版』
- 坂井市 大関コミュニティセンター
『どすこい大関』
- 若狭町 西田公民館
『西田公民館だより』



Bコース

- 最優秀賞
越前市 岡本公民館
『ふるさとおかもと』
- 優秀賞
越前市 国高公民館
『サン・サンふるさと国高』
- 坂井市 三国コミュニティセンター
『まち協だより「392PLUS」』
- 優良賞
福井市 文殊公民館
『こんにちは 公民館です!!』
- 鯖江市 片上公民館
『公民館報「文殊」』
- 鯖江市 北中山公民館
『公民館だより「北中山」』



「こうれんふくい」第90号

≪発行≫ 福井県公民館連合会

〒918-8135 福井市下六条町1-4-1

福井県生活学習館2階

TEL/FAX (0776) 41-4077

E-mail f-kouren@kore.mitene.or.jp



WEB サイト



Facebook

≪編集≫ 広報紙委員会

福井市円山公民館

勝山市北郷まちづくり会館

坂井市磯部コミュニティセンター

福井県公民館連合会事務局

堀田 博

永吉孝二

大壁聡子